

展示解説

人々の生業としての狩猟・採集



2018年5月4日（金・祝）

植物と人々の博物館（自然文化誌研究会）

生業とは何か？

日々の仕事は生きるための営みです。人生は職業（産業）のほかに、自然と関わる生業を楽しみ、自分たちの食べ物などではできるだけ狩猟、採集、農耕、漁撈して自給し、自ら心身を充たします。そして、過不足があれば地域で分かち合います。

自然物は適応進化を何億年もの間に、一時も止めはしませんでした。この現代の消費文明の極みの時代、先真文明に向かう移行時代に、自然物は順応、適応して新たなニッチを求めています。山から、シカ、サル、クマ、イノシシ、野生動物たちが人里に降りて作物を奪い、街に出没して人を襲っています。彼らばかりではなく、巨大都市と大陸間交通の文明に順応して、カ、ゴキブリから病原菌までが世界中の都市にも移動して定着しています。自然は公正だから、自然現象に備えなければ人間は自らを守れないし、野生と戦わなければ共存も共生もできません。ただし、人間の場合は文化的進化によって、野生獣のようにひたすら自然選択されるばかりではなく、意志ある選択をある程度することはできます。

自然への畏敬、食べ物への感謝を失った現代文明の増上慢。より多くを奪い合うのではなく、より善くなるように競い合うことだと思います。人を羨まず、自分を卑下せず、自分そのものを素心に生き、自分の暮らしをほどほどの快適さに自律制御すること。すなわち、足るを知る、知足です。欲望を自律制御せずに、過剰な便利に押し流され、自失しないことです。過剰な便利さを自律しなければ、自らの限度をもって部分拒否しなければ、便利に隷従することになります。便利に抗う生活の復元力は、伝統的な生活技術を学び、継承することにより、昂進できます。このためには意志的に不便を求めて、暮らしの技術や技能を忘れないように磨く必要があります。狩猟や採集などの生業は現代にも続いています。職業、趣味や害獣駆除として狩猟は必要です。野生獣を殺傷することに、都会人は異論があるでしょうが、山村に暮らしていると、山野草や農作物は食害され、大型獣からは身体的に危害を加えられることもあります。養魚や養蜂、魚釣りや蜂取り、山菜採りやキノコ狩りなど、職業としても趣味としても、今日まで従事する人、楽しんでいる人は多くいます。また、生物文化多様性の学術野外調査でも、野生の植物を採集、沢山の田畑や農家を訪問し、種子を分けていただき、伝統的知識の聞き取りを行って、記録してきました。これらの活動に用いる道具も展示しました。



展示

冬の山の道具（登山）

2014年の大雪の際、1mを超す積雪で、除雪車が来る前に人力で道を切り開く際、輪かんじきは役に立った。小菅の山では、アイゼンとピッケルを使うような場所は厳冬期でもほぼない（森林限界を超えず、岩石の露出部分が少ないため）。

- ① 輪かんじき（新雪を歩く際に、雪の上を歩くような感じで使用）
- ② アイゼン（地面が凍っている時に役に立つ）
- ③ ピッケル（氷に突きさせる杖）
- ④ ハーネス（ザイルを使用する時に）
- ⑤ エイト環、ハーケン、カラビナ（登攀用具の代表的なもの）

狩猟の道具

通常の猟期は、11/15～2/15（3/15までは、鹿と猪のみ捕獲できる特別猟期）であり、それ以外の期間が「有害鳥獣駆除（指定管理捕獲）」などを行っている。

猟友会は、行政から有害鳥獣駆除を依頼されて行っている（という立場になる）。

- ① 無線機（仲間との連絡）、GPS（犬の移動ルートがわかる）
- ② 帽子とチョッキ（猟友会員に支給される、必ず着用する決まり）
- ③ 所持許可証（銃を持ち歩く際は必ず携帯する）
- ④ 弾帯（腰に巻き、すぐに弾を出せるように、弾を装着しておく）
- ⑤ 腕章・マグネット（有害鳥獣駆除の際に、携帯、提示する）
- ⑥ スパイクたび（狩猟、きのこ・山菜採りなど、小菅の山では万能）
- ⑦ 鹿の頭骨（特に意味は無い）

海外学術調査の植物採集道具（詳細はナマステ第132号参照）

1. 調査バッグの中身

- 1) デイバッグ：調査行動中に使う。
- 2) カメラ：一眼レフは野外撮影用、オートカメラは室内での調理スナップ写真用。フィルムは植物用と調理用ASA64と100、コダカラー・コダクローム2種類。
- 3) 文具：野帳、ボールペン、マジックインク、ホッチキス、針、名刺、地図。
- 4) 採集用品：収穫袋、種子袋、野冊、ビニール袋、根ほり、剪定鋏。
- 5) 測定用具：定規、メジャー、高度計、方位磁針、時計、テープまたはICレコーダー。
- 6) 嗜好品：タバコ、村人や運転手と吸う。
- 7) ヘッド・ランプ、傘。

2. 資材、収集標本を運ぶ

- 1) スーツ・ケース：旅行用品、調査用品（フィルム、野帳、収穫袋、ビニール袋各種）、医薬品。
- 2) 信玄袋・登山用ザック：収集した種子や植物標本を運ぶ、小旅行用に使用。
- 3) ブリキ衣装缶：バザールで購入し、収集種子や植物標本を入れて、別送品で日本港湾の植物検疫所に送る。
- 4) 資材：カメラ2、乾電池、録音テープ、フィルム、ルーペ、さく葉標本乾燥用古新聞紙、標本保存用のアルコール。

*新聞紙は再利用のため、アルコールは禁酒の地域では入手が困難である。

- 5) 熱帯病医薬品：抗マラリア薬、スポーツ・ドリンク粉末などは購入する。
- 6) 生活用具：軽登山靴、サンダル、アルコール・コンロ、コップ、ナイフ、ヘッド・ランプ、シェラフ・

カバー、裁縫用具、封筒、報告書用紙、電卓、辞書、ウイスキーなど。

7) 研究発表：スライド、USB、DVD、論文別刷。

*生活用具はできるだけ現地バザールで購入し、土産にする。

採集展示品

果実：マテバシイ、ギンナン、クルミ、クリ、トチ

樹皮：メグスリノキ、キハダ、コウゾ、ハルニレ

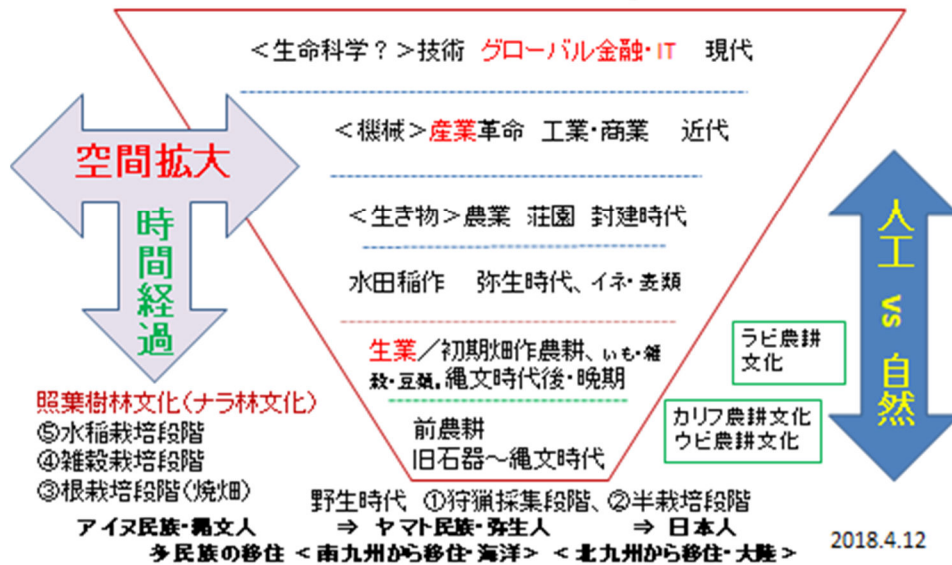
葉：スゲ、ワラビ

根：ヤマイモ（ムカゴ）

企画担当 黒澤友彦（狩猟・登山）、木俣美樹男（採集・野外調査）

協力者 若林高子さん（水環境）、安孫子昭二さん（考古学）、守屋秋子さん（縄文土器貸与）

現在日本の農耕文化の歴史的多層構造
連続的に、混合的な生物文化多様性への蓄積と衰退
複雑／単純、虚無・便利の超克(The nothing / The convenience)



図に示すように、日本列島人の歴史は長いので、現代の文明はすべてを重ね合わせた構造をしています。私たちの暮らしを豊かに、幸せに営むには、伝統的な知識体系を先祖から受け継いでゆくことが必要です。私たちは自然と離れて、自然から学ばないようでは、今も将来も生活することはできないと思います。

自然文化誌研究会（東京都日野市）：代表 中込卓男、副代表 中込貴芳（東京）、小川泰彦（埼玉）

ミュージアム研究会／トランジション小菅（山梨県小菅村）：代表 青柳諭、副代表 亀井雄次

植物と人々の博物館（山梨県小菅村）：館長 木下善晴 **山梨県小菅村井狩バス停近く**

日本村塾生・研究員：木俣美樹男（東京）、西村俊（石川）、藤盛礼恵（千葉）ほか

雑穀街道普及会 <http://www.milletimplic.net/milletworld/millstr.html>

事務局長：黒澤友彦（山梨県小菅村） npo-inch@wine.plala.or.jp

公式 HP：自然文化誌研究会 <http://www2.plala.or.jp/npo-inch/> 植物と人々の博物館 <http://www.ppmusee.org/>

メールマガジン発行：木俣美樹男 kibi20kijin@yahoo.co.jp

個人 HP：生き物の文明への黙示録 <http://www.milletimplic.net/>
